

8月6日(火)金沢ニューグランドホテル5階「銀扇」にてZCクラブ訪問例会が開催されました。334-D地区4R3Z、ゾーン・チェアパーソンL.平櫻敏雄様、副ゾーン・チェアパーソンL.城輝雄様、地区四献・環境保全委員L.新田正様の3名に参加して頂きました。

会長挨拶では、8月3日、4日に開催されました、金沢東ライオンズクラブ杯争奪トーナメントでは、子供たちのプレーを観戦しまして「感動に感謝」できる心暖まる思いでした。5年間続きましたので今回でクラブとしてのアクティビティは打ち切りという意見もありますが、とても良い事業なので次期会長とも話し合いをしながら良い方向に進んで行けばと思います。

「思い出の空飛ぶランドセル」で集めましたランドセルを届けに北川幹事、中山理事と共に今月の19日から3名でタイへ行って参ります。大垣LCからも先生2名、生徒2名を含めた総勢約10名で授与式に参加致します。詳細につきましては第2例会で報告したいと思います。

ZC平櫻Lの挨拶では、334D地区ガバナーL.山岸博之様の地区スローガン「連携と協働」「未来を拓くWe Serve」です。会員の皆様全員に100\$献金のお願いと、家族一緒に桜の苗木植樹をして頂きたい。目標は334D地区で10,000本です。地区正会員が5,611名ですので一人約1.7本、金沢東ライオンズクラブは56名なので95本となります。95本の苗木を植えるのは場所も大変ですので、3mくらいの成木1本を10本分として換算して10本、また行政との連携もありますので単年ではなく3年の計画で行うこととなります。「自分たちのクラブが楽しくなければ会員増強もできないし成長もしない」山岸ガバナーがよく使う言葉です。金沢東ライオンズクラブもクラブファーストで会員増強をして頂き、今後の活動への協力を宜しくお願い致します。

<各種報告 PR 事項>

・7月23日(火)納涼同伴家族例会を金沢ニューグランドホテル「パラッツオ」にて開催させて頂きL.40名 LL.15名 FL.10名のご参加を頂きました。ビュッフェスタイルのビアパーティーで本マグロの解体実演を行い全員で楽しい時間を共有する事ができたことに感謝申し上げます。(計画委員長 L.草野哲也)

・8月3日(土)、4日(日)に青少年育成委員会によるアクティビティ『2019金沢東ライオンズクラブ杯争奪トーナメント』が開催されました。開会式ではちょっとしたハプニングありましたが(笑)、野村会長の始球式によって大会が始まりました。参加チームは、県内11チーム、大坂2、富山2、福井1チームの計16チーム。高松球場をはじめ、4会場で二日に渡り白熱

した戦いが繰り広げられました優勝は夕日寺クラブ、準優勝は撫城少年野球クラブ、3位千坂ファイターズでした。今大会は県内チームの上位独占した大会となりました。閉会式では、第二副会長の堀岡Lがこの大会の素晴らしさを語り閉会の挨拶を終了いたしました。二日間とも非常に天候もよく、暑い日となりましたが大きな怪我もなく無事に終わられたことに運営して下さった少年野球関係者、保護者の皆様、そして元気、勇気、ガッツで気迫溢れるプレーをしてくれた子供たちに感謝したいです。また、二日間総勢36人参加、観戦していただいたLCメンバーにも感謝致します。(青少年育成委員長 L.横田恭一)



<委員会アワー>

・社会奉仕(四献推進)委員長 L.永野琢也
例年通り4回の献血、ライオンズデーの奉仕活動、金沢マラソンボランティア活動を行います。献血活動で新しく星稜大学の学生と共に協力して活動して行く予定です。一年間永野スマイルで頑張りますのでよろしくお願い致します。

・青少年育成委員長 L.横田恭一
本年度は金沢東ライオンズ杯、書き初め・こどもかるた大会、思い出の空飛ぶランドセル事業を行います。今後の各アクティビティのあり方を考えると言うことでライオンズ杯の開催をどうするか、思い出の空飛ぶランドセル事業では開催校の変更なども検討して行かなければならないと考えます。今年一年間青少年の育成に対して皆様と共に考え頑張りたいと思いますのでよろしくお願い致します。

・地域環境(卯辰山事業)委員長 L.松尾靖
今年一年間はただひたすら卯辰山の事だけを考えて事業を推進して参りたいと思います。草刈り機2台とブロワー2台の購入、物置を花菖蒲園のトイレ横に設置して頂く予定です。清掃と言うよりも一歩進んで整備をして行きたいと思いますのでご協力よろしくお願い致します。

テールツイスター中田Lより、昨年度「思い出の空飛ぶランドセル」事業で220個以上のランドセルを集めました。鳴和中学校の生徒が書いたタイ語でタイの子供たちに宛てた手紙を預かってきた手紙の披露があり、両国の国旗を描いたメッセージカードと共に野村会長に託されました。金沢東LCと大垣LCの共同のアクティビティが、日本の中学生とタイの小学生を思い出で結び付けた「感動に感謝」できる心暖まる内容でした。

